

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人 栄仁会		
事業所名	グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)		
所在地	〒611-0013 宇治市菟道段の上20-1		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 御利用者1人1人に担当者が付き、細かいケアが行き届くよう心掛けている コロナ禍で色々な地域参加行事や交流は中止になっているが入所以前から参加していた地域の敬老会、消防団、自治会には継続して席を置き、交流を閉ざさない様になっている コロナ禍で外出が困難であるが月1回は花見や夏祭りといった行事を企画したり、ドライブに行くなどし、気分転換や季節を感じて頂くようにしている 園芸委員を決め中庭で四季の花や野菜を育て、花を見ながらランチ会やお茶会をしたり野菜の収穫と一緒に楽しんでいる 浴室にリフト浴を設置し、浴槽へ入る事が難しくなった方にも、これまでと同じ様に入浴して頂いている 看取りも含め緊急時は24時間主治医と連絡が取れ、適切な医療が受けられる体制を取っている 食事の自力摂取が困難になった御利用者にはユニット会議で話し合いその人に適した食事形態の見直しを行い、'食べる楽しみ'が失われない様に心がけている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691200055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1 ひと・まち交流館京都1階
訪問調査日	令和2年11月4日

(さくらユニット)と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、理念を心に刻み込んでいる。またケアプランの作成には理念であるそのひとらしさを大事にし、名前を見なくても誰のものなのかが分かるプランを作成出来るよう職員全員で考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流は控えているが自治会との情報交換は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、毎年実施している職場体験等の受け入れは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響により、運営推進会議も中止されているが会議資料を参加されていた方に配布し、意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、介護相談員受け入れまた、地域イベント参加は中止している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束についての研修を行い、意識が風化しないようにしている。研修では身体拘束に伴う御利用者の疾患への影響から知らずにやっ てしまいがちな身近な拘束の事例等毎回趣向を変え、見方をかえながら拘束について学んでいる。		

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを定め、職員が閲覧できるようにしている。また、拘束と同様、毎年施設内にて研修を行う他、普段の着脱介助、入浴介助等で体にあざなどないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度についての研修を施設内で行い、権利擁護についての理解を深めている。現在1名の御利用者が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、契約後も必要に応じて契約時の内容を繰り返し説明している。 必要時には契約書の改訂を行い、本人家族に説明を行っている	¥	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、アウトカム評価を行っている。年に二回、家族会を実施する予定ではあったが令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為家族会を中止している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・個別面談等で提案できる機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面接を行い、意見をくみ上げ、環境整備に反映させている。 定期的にストレスチェックを行い、職員の精神面でのフォローを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、外部の研修参加を中止し月1回の全体会議にて研修会を実施し知識向上を目指している。また、職員全員がレポートを提出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではあるが教育委員会の研修では同職種者と新任者研修では他部門との交流を行っていたが令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為交流会や研修会は中止している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを用いて御本人の言葉を拾ったり、御家族から情報を頂き、その人らしく生活できるサービスにつなげている。他施設からの入居の際には、施設の職員にも話を聴き、ニーズの把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式シートをもとに、家族の思いを知り、サービスに繋げるとともに、家族もチームの一員であるという意識をもって頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズによって同施設内にある小規模多機能居宅介護や居宅介護支援の利用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりやセンター方式シートからの情報をもとに、一人ひとりの得意分野・性格を知り、御利用者が一員であると感じて頂ける関わりをもっている(掃除、食事の準備、片づけ、洗濯物たたみ等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・運営推進会議・行事等への参加の機会を設けたり、自宅に帰り、家族と家で過ごす時間を作ったりと、つながりを大切にしている。令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、面会の制限を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は外出制限を行っている為、御家族とは電話で会話して頂いたり、お手紙に写真を添えたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者の性格や相性を考え、リビングで過ごされる際の座る位置の工夫を行ったり、集団での生活が苦手な方は、個人テーブルの活用や時間の調整等でくつろぎの空間づくりをしている。令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、同施設内でも移動の制限を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者、家族へ他施設の紹介や入所の申し込み方法の説明、申請代行等、退所後の相談、フォローを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の職員を中心に、日々の生活の中で言動をもとに、御利用者の希望・思いを把握し、その情報を全職員で共有し、必要に応じてケアプランに落とし込み、希望、意向の実現に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族に、センター方式シートの記入をお願いしている。御利用者からも、昔の話を伺い、細かな情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートを用いて気分や心身状態の変動、日中の過ごし方、ニーズの把握に努めている。それにより新たなニーズの発見時にはケアマネジャー、心身状態に変化があれば看護師と連携し必要な対応を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員で話あったり、週一回のスタッフ会議で課題を挙げ、他職員の意見にも耳を傾けながら、より良いケアにつながるよう努めている。身体状況については主治医に相談し生活を行う上で気をつける点等の聞き取りを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には、センター方式シートを活用し、分析を行っている。ケアの工夫で上手くいったことがあった際には申し送りで伝達し、その場限りのケアにならないようにしている。		

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の施設で行われるレクリエーションへの参加を促したり、スタッフと買い物に出かけたり、一時帰宅頂く等、施設内の活性化を図る為にも様々なボランティアの受け入れている。令和2年4月以降は施設内の移動、外出については自粛しており、ボランティアについても受け入れを中止している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや近隣施設の催し物に参加して頂いたり地域保育園児との交流・学生の職場体験の受け入れをしていたが令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流は自粛している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診察を定期的に受けている。体調不良時、家族や本人が希望される際には主治医と連携を取り、緊急訪問診察や他科への受診を行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関のクリニックと連携を図り。連絡・相談ができるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者や家族には予め、搬送を希望する病院を聞き、入院時にスムーズに移行できるようにしている。また、入院後も面会に伺い、入院先の看護師との情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関する研修を行いグループホームでの看取りについて定期的に話し合いを行っている。入居時や家族会等の機会に、ご家族・御本人に看取りに関する聞き取りを行うとともに、気持ちの変化に対応出来るよう、年に一度は看取り期の対応について再度確認するようにしている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についての研修を職員全体で行っている。また、消防署に依頼し救命講習(AED含む)を受け、職員全員に設置場所の把握・使用方法を学んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回防災訓練を行っており、火災のみならず、地震、有事の際動けない方の搬送方法等、その時々に必要なと思われる訓練を行っている。また、施設職員が消防団に参加しており、訓練に参加して頂いたり協力体制の構築を行っている令和2年3月以降は、消防署・消防団の参加を控えた訓練等を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーに力を入れており、接遇委員中心に職員全体で研修を行っている。また、スタッフ会議ではユニットの月目標を決め、全員で接遇向上の意識を持つようにしている。プライバシー保護・コンプライアンス研修も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご利用者と関わりを持ち、御本人の希望や思いをくみ取っている。また、思いを伝えることが難しい御利用者からはご家族の思いや以前の暮らしを伺い、希望に添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者一人ひとりの生活歴を把握し、その人の得意分野を活かせるように心がけている。例えば掃除や台拭き等を分担し、生きがいや、やりがいをもって生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から髪を整えたり、ひげをそったり、清潔感を保って頂いている。レクリエーションがある日や外出日は特に、おしゃれな服を着たり、女性はお化粧品やネックレスをつけて頂いている。買い物に行った際には好みの服を選んで頂いていたが、コロナの渦では本人の好みや希望等を聞き取り職員が買いに行くようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを尋ねたり、可能な方には下膳や洗い物をして頂いている。また、お誕生日にはその方のお好きな物、食べたい物をメニューに取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重ならないよう毎日献立を記入している。中庭でゴーヤやパプリカ等を栽培し、収穫してそれが食卓にならぶ楽しみを感じて頂いている。必要時には管理栄養士に相談を行っている		

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止の為、食前の嚥下体操を御利用者が主体になって取り組んで頂いている。コロナウイルス感染予防の為、令和2年4月以降は治療の必要な方のみ訪問歯科による訪問衛生指導を定期的に行い、歯磨きの援助を行っている。義歯の清潔保持の為、洗浄剤使用の援助も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式シートを活用し、排泄パターンの把握に努め、個々の排泄リズムに添って声掛けや誘導を行っている。気分の変動に合わせて、布パンツとリハビリパンツの使い分けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品やヤクルト・バナナなどを召し上がって頂いている。日中の水分量も配慮し、10時・15時の補水を促している。食事では野菜を多くとって頂けるよう調理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を気にされている方には特定の曜日に入浴して頂くようにしている。立位保持が難しい方には小規模多機能の機械浴や、7月にグループホームに設置したリフト浴に二人介助にて入浴して頂いている。入浴剤や保湿剤、柚子湯で入浴を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	中庭の園芸や野菜栽培が見える場所にソファとテーブルを設け、くつろげる場を作った。また、玄関先にもベンチを置き、日光浴や園芸を楽しんで頂けるよう花を植えたりと工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録ファイルにお薬リストをファイリングし、全職員がすぐに見られるようにした。主治医・看護師・薬局と連携をとり、薬が変わった時はすぐ分かるように服薬箱に変更の日時・薬名を記入してもらうよう、薬局に依頼し、セット時は職員も確認するようにした。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品(酒・菓子・コーヒー等)を本人の希望でお出ししている。スポーツ観戦や時代劇等がお好きな方にはテレビ放送のある時に観て頂いている。やまぶきで育ったお花をテーブルや居室に飾り、季節を楽しんで頂いている。		

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりの中から、希望している外出先などを伺い、映画鑑賞や外食等の外出レクリエーションを季節ごとに行っている。意思の疎通の難しい方にはご家族に相談し自宅に帰ったり、家族も含めた外出を行っていたが令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染予防の為外出は自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自、お小遣いを金庫で管理しご家族に連絡の下、外出時やスタッフが代行で買い物を行えるよう自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直筆で書かれた文章に職員が一言添えて投函の支援をしている。手紙のやりとりや電話でお話しされる方には取次等のお手伝いを行っている。個人で携帯電話を所持し、御家族と連絡を取っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や中庭に季節の花や野菜を植えたり、正月飾りやひな人形等季節感のある空間づくりを行っている。月に二回、生花の先生をお呼びし、御利用者や季節の花を活けている。台所で調理をしながら会話したり、家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。(令和2年4月以降はコロナウイルス感染予防の為、生花ボランティアを自粛している)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人と歌唱をしたり、テレビを見て頂いたり中庭に野菜を植え、家庭菜園を楽しんで頂いている。ご自宅で使用していた馴染みのテーブルをリビングで使っておられる方もおられる。リビングから離れた場所にソファとテーブルを設け、一人になれる時間が取れるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者はダンスやテーブルなどの使いなれた家具やテレビやラジオを置いて、自由な時間を過ごして頂いている。ご家族の写真や孫様の絵を飾っておられる方もいる。家具の耐震なども考慮した安全な居室作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、手すりを持った移動の声掛けや調理・食器洗い・洗濯物たたみ・ごみ集め・水やりなど「できること」への支援をしている。		